

令和2年度 さつきの里看護小規模ケアホーム アンケートの集計 R3.1

R2	14人/16人中 回収、回収率87.5%	1.よく・・・			2.まあ・・・			3.あまり・・・			4.まったくわからない			5.回答なし		
R1	16人/18人中 回収、回収率88.9%															
H30	15人/18人(19人)中 回収、回収率83.3%	H30	R1	R2	H30	R1	R2	H30	R1	R2	H30	R1	R2	H30	R1	R2
(1)	職員は、ご家族の困っていること不安、求めていること等の話をよく聞いていますか？	14	15	12	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)	ケアホームでのご本人のご様子や健康状態、職員の異動などについて、ご家族にご連絡ができておりますか？	15	14	9	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(3)	職員は、ご本人の介護計画をご家族にわかりやすく説明し、一緒に、内容に関する話し合いをしていますか？	13	14	10	1	2	1	0	0	1				1	0	0
(4)	職員は、ご本人の思いや願い、要望などをわかっていると思いますか？	12	14	8	3	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(5)	職員は、ご家族やご本人のその時々状況や要望に合わせて、柔軟な対応をしていますか？	12	13	11	3	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
(6)	ケアホームを利用するようになって、ご本人の生き生きとした表情や姿が見られるように	8	12	10	6	2	3	0	0	0	1	2	0	0	0	1
(7)	ご本人は、職員の支援などで、戸外に行きたいところへ出かけられていますか？	7	7	3	6	3	6	2	2	2	0	4	1	0	0	0
(8)	ケアホームを利用されていて、健康面や医療面、安全面について心配な点はないですか？	10	8	9	3	8	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0
(9)	ケアホームは、ご家族が気軽に訪ねて来られやすい雰囲気ですか？	12	9	10	2	5	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0
(10)	ご家族から見て、職員は生き生きと働いているように見えますか？	14	13	12	1	1	2	0	0	0				0	1	0
(11)	ご家族からみて ご本人は今のサービスに満足されていると思いますか？	12	14	11	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0
(12)	ご家族は、今のサービスに満足されていますか？	10	12	8	5	3	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0
(13)	その他、なんでもご意見を記入してください。	*いつも気配りをさせていただいてありがとうございます。コロナなど心配が多いのにお世話になり、感謝申し上げます。 *コロナに気を付けてください。 *家族が気付かない打ち身。ただれ等指摘くださり、適切な処置やアドバイスをいただいております。また、看護師さんが血圧等の管理してくださるので安心してます。リハビリのお蔭で足の筋力もついてきたように思います。 *お蔭様で、穏やかな生活を過ごすことができます。これからもよろしく願います。 *本人が言葉で表さないのわかりませんが、穏やかな顔になり、”嫌な言葉”を聴くことがなくなり、今が一番居心地が良いのかと感じています。皆さんは私の事も気にかけてくださりありがたいと思っています。早くコロナが収まり皆さんが自由に動けることを待ちたいですね。 *利用当初は、なかなか慣れず「嫌だ嫌だ」とよく言っていた。しかし、職員の方が本当に楽しそうな笑顔で接してくれた。今はイベント毎に楽しそうに話してくれる。髪を切っても、カラーを変えても、指をちょっと怪我をしても全て気づいてくれて、本当によく見てくれているのだなあと感じる。本人もお風呂でケアホームを訪れるときは朝早くから用意してルンルンしている様子をよく見ます。大感謝です。これからもよろしく願います。														

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人 みわ記念病院	事業所名	さつきの里看護小規模ケアホーム
所在地	(〒719 ー0106) 岡山県浅口市金光町地頭下2 8 4ー1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

住み慣れた地域で、「認知症になっても」「療養をしながらでも」「最期を家族と迎えることも」、さつきの里の目標である「おもてなしの心をもって」を掲げ、職員一丸となって支援しています。

ケアホームでは、特に、環境整備に力を入れています。「居心地のいい環境を提供しよう」ということで、ハード面はもちろん、職員のあいさつ、雰囲気、静かな空間など利用者様が落ち着いて過ごせるように 日々試行錯誤しながらサービスの提供をしています。

看護小規模多機能型居宅介護ならではの柔軟な対応として、急な「泊り」、体調に合わせた「通い」、そして訪問看護や訪問介護で健康な生活を維持できるよう支援しています。「通い」では、季節の行事やドライブなど、利用者様と一緒に、笑い、楽しんで、「訪問介護」を増やし、在宅生活のリズムの調整を図っています。事業所内の理学療法士との連携、専門的なリハビリも行い、機能維持をしています。「泊り」の方は、看護職員がオンコール体制を取って、利用者様にも、働く介護職員にも、安心で過ごせる夜間を提供させていただいています。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、夏まつりの中止、地域交流もなかなかできませんでした。利用者様が体調を崩さないように、健康管理はもちろん、マスクの着用、手洗い、消毒を徹底しています。事業所内の次亜塩素水の消毒、送迎車の消毒なども徹底しておこなっています。そして、職員の健康管理も毎日チェックして、気を付けています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2021 年 2 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(14) 人 ※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2021 年 3 月 26 日	出席人数（合計）	(7) 人	※自事業所職員を含む
出席者（内訳）	■自事業所職員（ 3 人） ■市町村職員（ 1 人） □地域包括支援センター職員（ 人） ■地域住民の代表者（ 3 人） □利用者（ 人） □利用者の家族（ 人） ■知見を有する者（ 1 人） □その他（ 人）			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	・看護小規模多機能型居宅介護サービスとして、地域で唯一の看護サービスができる事業所として、更に住み慣れた家で在宅での療養をしながら続けられるように、利用者・家族のニーズに合わせ対応していく。 ・職員のスキルアップができるように、個別の目標を立て、年1回の外部研修、内部研修2回以上の参加を推奨していく。家庭との両立のため、内部研修のほうを4回から5回に増やして研修機会を確保する。 ・365日24時間対応の事業所なので、職員も働きやすい職場づくりのため、有給休暇（時間有休）を活用し、コミュニケーションを図り職員が元気で明るく、利用者・家族にか	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、行事もホームの中だけで、家族や地域の方の参加もなしで、大きな行事もなくなり、閉鎖的な一年。コロナ対策支援金を利用して、感染対策を行い、オンラインでの情報交換や研修などに取り組んだ。 ・人手不足で、新規の利用者は消極的な受け入れだったが、医療保険での看護サービスのかたも受け入れ、一層医療との連携を図った。 ・働くご家族のために、柔軟に夕食後や日勤の時間の前の受け入れなど行い、介護離職や入所を早めないで済んだ方がある。	・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、閉鎖的な一年になった。研修は、終盤でやっとオンライン、リモートなどで、外部研修や情報交換を行った。スタッフにもオンラインでの研修ができるように指導が必要となってきた。 ・パート職員の退職で、人手不足で職員の業務負担が大きくなったうえ、職員間でのミーティングが書面になったため、話し合う機会は減ってしまった。利用者のカンファレンスは行うが、業務改善についてはなかなかできていない。 ・人材確保を最優先に取り組み、話せる職場作りが必要。	・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外部との接触が制限されたこともあり、積極的な活動ができなかったなかで、オンライン研修、リモートでの情報交換など可能な範囲で行われていると思う。 ・人員不足により、積極的な受け入れができておらず、外国人や高齢者の活用も含め、中長期的な人員計画を策定お願いしたい。

		かわれるようにする。 ・看護職員と介護職員の情報共有、看護職員からの介護職への指導・助言で、細やかな予測の下、サービス提供を行う。 ・緊急時・災害マニュアルは、作成したものを訓練と共に見直しをしながら、現実のものへステップアップできるようにしていく。			
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供（評価項目 11～27）	・病院や施設から、在宅復帰ができるように、入院（所）中から連携を取りながら、次回受診には、病医院へ在宅の様子を報告し、病状の安定した生活が送れるよう介護・看護サービス提供する。特に理学療法士の専門的意見を取り入れ、在宅環境を整えていく。中心は「通い」であるが、訪問介護・看護を効果的に取り入れて、柔軟に組み合わせながら、提供していく。	・介護職と看護職の情報共有や相談や指導、助言で、利用者様の状態変化などに迅速に対応してきた。 ・今年度、足の循環不全やケガなどで、創傷処置が多かったが、認知症がひどく、環境変化を最小限にとどめるために、入院せず、外来通院と看護職の処置で対応しているケースが3例あった。入浴の方法や夜間の対応など、看護職からの指導や助言と介護職の観察、介助で回復に向かった。研修に行かずとも、現場での実践スキルアップにはつながった。 ・今年度大きな災害（台風、雪など）なく、平穏だった。避難訓練は時期が違うが、ホーム内で行った。	・PTの需要が多く、訪問看護ステーションの訪問が増え、ホームでのかかわりが少なくなったが、訪問看護での訪問リハビリは利用者の満足度アップと家族指導・在宅での機能維持に役立っている。 ・災害マニュアルに関しては、市に提出はしたが、連絡待ちのままである。市内の事業所では当事業所のみがマニュアル作成に該当するとのこと。コロナ収束を待たず、ご意見をいただきたい。	・市へ提出した災害マニュアルは、地域防災計画に位置付くもので、計画の見直しはまだ先と聞いています。 ・現状の災害マニュアルによる定期的な防災訓練、見直しが必要です。 ・利用者の希望や特性をよく把握して適切なサービスができていていると思います。 ・災害マニュアルを作成したとのことだが、災害時は勿論のこと、平時の装備品の点検や避難訓練等の実践などの備えを徹底してください。
	2. 多機関・多職種との連携（評価項目 28）	・利用者様・家族様を取り巻く、多職種・多機関との連携を入院（所）中から行い、計	・利用者ごとに担当を決め、プランの変更とともに、ケアの留意点の変更も行うように	・担当を決めて、カンファレンスを行うことで利用者に寄り添った介護サービスの提	・引き続き、多機関・多職種と連携の継続に努めてください。

	～31)	画に反映できるように、関わっていく。 ・看護サービスを必要とする医療度の高い利用者には、医師の指示の下、専門的見地から療養ができるように看護職・リハ職が対応し、介護職への指導も行っていく。	して、カンファレンスは担当者が評価、課題の抽出も行えるようにケアマネ中心で運営を行った。 ・PT の配置により、機能訓練の充実、在宅での住環境のアドバイスもより深めた。	供が行えるうえ、スタッフのスキルアップにもつながる。 ・リハビリや病状のことなども、主治医と相談や報告することが増えた。福祉用具の選定も、専門職の意見が反映され、迅速な対応ができた。	・パートや夜勤の人など多様な職種のスタッフでサービス方向を共有出来るように。「知らなかった」がないように。担当者を決めて行っていることは責任の自覚にもつながり、良いと思いますが、フォローする体制も大切にしてください。 ・理学療法士により、運動機能の改善が図れ、在宅での生活の質の向上に繋がっていると思う。 ・担当者が責任と権限を持ち、それを明確にすることで、個々のレベルアップに繋がりを、他職種と連携も進むと思う。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)		・地域との交流を職員も積極的に持つことで、利用者様・家族様の地域でのかかわりが増えるようにしていく。 ・地域の圏域会議には、管理者・ケアマネ以外にも積極的に参加し、地域の現状を職員皆が実感して、利用している方々の現状に照らし、何が必要で、何ができるのかを検討し、介護計画にも盛り込みサービス提供へつなげる。 ・便りやHPなどで情報発信も積極的に行い、地域包括ケアシステムの中の一員として、利用していただきやすい環境を地域のサロンや夏祭りやキ	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、夏まつりもサロンもなく、地域の方とのかかわりがほぼなくなり、閉鎖的な今年度だった。 ・かかわれないけど、周りから見ていただけのように、ドライブや散歩などでやっていった。広報にも利用者様の笑顔をいっぱい乗せさせていただいた。 ・ご家族とも連絡ノートや電話、メールなどで、ご近所様には電話で連絡をとり、現在の様子を知っていただくことで、安心していただけるようにした。	・ケア会議のリモート参加で、顔の見える関係とまではいかなかったが、グループワークの事業所の方の今年度の苦労など聞いた。それを生かしていきたい。 ・地域のサロンの参加ができなかったが、近隣の方が野菜やお花を持ってきてくださって、間接的にかかわりができた。地域の中で生活する要介護者が、在宅を続けるためのヒントなども見つけ、プランに反映していけるので、今後	・地域のサロンへ参加することは、利用者家族や地域住民のニーズを直接聴ける良い機会にも。リモートやオンライン研修・担当者会議が日常になるでしょう。介護報酬もこうしたもの(IT化)を取れるように取り組みましょう。 ・地域サロンへ参加→ その人らしく・・・。若い時からの趣味や嗜好をつかんでおく。 ・終末期→重大なテーマです。よろしくお願いします。地域での予防介護、補助、家族への支援が拡大できるよう協力ください。

		ャラバンメイト活動など通してPR していく。	・今年度、初めて在宅での看取りをさせていただいた。家族と寄り添うことを重視してかかわった。家族に囲まれ自然な老衰で逝かれることができた。	もサロン参加を継続していく必要性を感じる。 ・終末期の方がいるが、ホームで最期を希望されている。時間を大切にかかわっている。	・地域サロン等への参加を継続してください。 ・新型コロナウイルスの感染拡大の景況により、地域や家族との直接的な関わりが減少していますので、連絡ノートやメール等での情報交換を図ってください。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		・利用者様・家族様の意思に寄り添い、住み慣れた家で在宅生活がおくれるように、コミュニケーションを取っていく。 ・高齢者の終末期の不安は、突然にやってくるかもしれないことに、しっかり目を向け、どのような生活が送りたいか、計画の見直し時等に話し合っていき、対応ができるようにしていく。 安心で安全な在宅生活へつなげていく。	・今回、2 例の終末期の利用者様とかかわり、高齢者の死にスタッフ一同かかわった。 ・住み慣れた家で、過ごせるように、家族に寄り添う大切さを勉強させていただいた。	・家族にコミュニケーションの取り方が変わってきた。(メールのやり取りなど) 家族のかかわりも増え、後もアプローチしていく必要がある。 ・一人でも多く、家で、地域で最期を迎えることができるように支援するのが、私たちの役割だと考える。	・人に寄り添った対応は大切だと思います。今後お願いします。 ・家族のための施設にならないように、時には家族との対立？も利用者の代弁者に。 ・終末期の利用者が増えてくると思います。家族の考えも一致していないことが多く、多々であり、困難があると思いますが、支援をお願いします。 ・今後は家族が地元にはいない利用者が増加すると思われます。地域の方とも連携して終末期の対応をお願いします。

※「進捗評価（運営推進会議における意見等）」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、外部との接触が制限され、やや閉鎖的な活動となった。人員不足も伴い、やや疲弊感が職員に立ち込めていたが、各々職員が協力して、看護小規模多機能型サービスの使命として、利用者様や家族様に寄り添いサービスを行ってきた。 ・後半には、オンライン研修やリモート参加などもできる環境が整って、少しずつ新しい環境に慣れていった。 ・人員確保ができておらず、計画的な補充が必要。 ・災害マニュアルの見直しはまだできていないが、火災時の避難訓練については、年2回実施し、問題点や確認をすることができたので、防災についても今後の課題として、取り組んでいく。	・看護小規模多機能型居宅介護サービスとして、地域で唯一の看護サービスができる事業所として、更に住み慣れた家で在宅での療養をしながら続けられるように、利用者・家族のニーズに合わせ対応していく。 ・新型コロナウイルス感染症には気を付け、オンライン研修や事業所内での研修も含め、職員のスキルアップができるように、個別の目標を立て、年1回の外部研修、内部研修2回以上の参加を推奨していく。家庭との両立のため、内部研修のほうを4回から5回に増やして研修機会を確保する。 ・365日24時間対応の事業所なので、職員の確保をし、働きやすい職場づくりのため、有給休暇（時間有休）を活用し、コミュニケーションを図り職員が元気で明るく、利用者・家族にかかわれるようにする。 ・看護職員と介護職員の情報共有、看護職員からの介護職への指導・助言で、細やかな予測の下、サービス提供を行う。 ・災害マニュアルの見直し、訓練の実施、業務継続計画（BCP）の作成、感染防止対策・委員会の開催、ハラスメント対策など着手していく。

Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供（評価項目 11～27）	・介護職と看護職の情報共有や相談や指導、助言で、利用者様の状態変化などに迅速に対応してきた。 ・今年度、足の循環不全やケガなので、創傷処置が多かったが、認知症がひどく、環境変化を最小限にとどめるために、入院せず、外来通院と看護職の処置で対応しているケースが3例あった。入浴の方法や夜間の対応など、看護職からの指導や助言と介護職の観察、介助で3例とも回復に向かった。研修に行かずとも、現場での実践スキルアップにはつながった。 ・理学療法士との連携、訪問リハビリで、機能向上をややしている方もおり、機能維持はできているので、このままの体制でやっていきたい。	・病院や施設から、在宅復帰ができるように、入院（所）中から連携を取りながら、次回受診には、病医院へ在宅の様子を報告し、病状の安定した生活が送れるよう介護・看護サービス提供する。特に理学療法士の専門的意見を取り入れ、在宅環境を整えていく。 ・中心は「通い」であるが、訪問介護・看護を効果的に取り入れて、生活の中での機能訓練ができるように柔軟に組み合わせながら、提供していく。
	2. 多機関・多職種との連携（評価項目 28～31）	・担当者を決めて、カンファレンスを行うことでより利用者様のことを把握して、主体性をもってプランの見直し、再作成への助言ができた。責任をもってかかわれることにもつながった。 ・利用者様の状況に応じて、他職種の意見を伺い、対応していた。そうすることで、適切な対応ができた。（主治医への意見をいただくため面談等）	・利用者様・家族様を取り巻く、多職種・多機関との連携を入院（所）中から行い、計画に反映できるように、関わっていく。 ・看護サービスを必要とする医療度の高い利用者には、医師の指示の下、専門的見地から療養ができるように看護職・リハ職が対応し、介護職への指導も行っていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目 32～41）	・圏域ケア会議へのリモート参加、介護保険運営会議への出席など、地域包括ケアシステムの一環を担うことへの協力や参加に努めた。リモート参加は、管理者・ケアマネだけで、他の職員はできていない。 ・地域との交流が新型コロナウイルス感染拡大のためできなかった。夏祭りも中止で、サロンの開催もほとんどなく、ほかの地域にキャラバンメイトに行くこともできていない。 ・ホームは原則面会禁止となっている。ご家族との日々の連絡は、メールや連絡ノートで行った。遠く県外の方は、帰省ができないため、手紙やメールで連絡を行った。	・地域との交流を職員も積極的に持つことで、利用者様・家族様の地域でのかかわりが増えるようにしていく。 ・地域の圏域会議には、管理者・ケアマネ以外にも積極的に参加し、地域の現状を職員皆が実感して、利用している方々の現状に照らし、何が必要で、何ができるのかを検討し、介護計画にも盛り込みサービス提供へつなげる。 ・便りや HP など情報発信も積極的に行い、地域包括ケアシステムの中の一員として、利用していただきやすい環境を地域のサロンや民生委員さんの集まりやキャラバンメイト活動など通して PR、啓発活動していく。

Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	・今年度、初めて在宅での看取りを経験し、自然な形で家族に囲まれ最期を迎えることができ、家族への寄り添いということがいかに大切かということを勉強させていただいた。その部分毎には、研鑽をつんで、もっといいかわりをしていくことも必要だと考える。 ・利用者様、家族様に寄り添ったサービス提供ができたかどうか、アンケートよりほぼ満足と答えてくださっている。目標達成できたかどうかについて、機能維持や健康に過ごせるなど変わらず、皆さまが過ごせている。安心して過ごせるかどうかについては、高齢者の介護を高齢の家族でとか、一人暮らしなど、不安定さがあるための不安があるので、「安心」とまではいかない。その不安を軽減させる必要がある。	・利用者様・家族様の意思に寄り添い、住み慣れた家で在宅生活がおくれるように、コミュニケーションを取って行く。 ・高齢者の終末期の不安は、突然にやってくるかもしれないことに、しっかり目を向け、どのような生活が送りたいか、計画の見直し時等に話し合っていき、対応ができるようにしていく。 ・高齢者同士の老々介護、独居など不安定要素には、特に寄り添って、安心して安全な在宅生活へつなげていく。
-------------------------	---	--

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅰ 事業運営の評価【適切な事業運営】							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	5	7	2	0	・介護保険該当（含要支援）の方で、自宅療養中の人、精神的に弱っている人への訪問看護へのニーズが高まってきていると感じます。病状・障害の観察、リハビリ、ケアの実施、相談や家族支援等が求められています。	✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・家族負担軽減ができるように、随時通い・泊り・訪問の利用について検討し、家族へのアドバイス・急な通いや泊りにも対応している。 体調不良等で病院受診が必要な場合、家族が難しければ、通院・受診介助を行い、早					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		期発見・早期対応につながっている。				・何と言っても手厚い看護を特色に、よくされていると思います ・独自の理念をHP等に掲載し、内外への周知をお願いします。	
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	1	13	0	0	・地域に密着した事業所として、特徴や理念等を踏まえて取り組んでください。	✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	2	9	3	0	・人員不足が生じないように。 ・個々人のスキルアップに向けて、中長期的な育成計画を作成してください。	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機	2	5	5	2	・民生委員児童委員協議会（民	✓ 「専門技術の向上のための日常業

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・新型コロナウイルスの感染拡大により、外部研修は、行くことができなかった。後半になり、コロナ対策補助金の利用で、オンライン研修ができるように、ノートパソコンを購入してから、少しずつ研修参加している。				児協)としても、コロナ禍の影響で、施設訪問や外部研修は実施できませんでしたが、基本的項目について、講師に来ていただき講演、研修を実施しました。新しい気付きもあり好評でした。(ご参考まで) ・オンライン研修を活用すれば、多数の研修参加できると思います。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で法人外の研修会の中止等がありますが、法人内での研修機会の確保も必要です。育成計画の策定をお願いします。	務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	6	7	1	0	・職員間の情報共有は特に大切です。また、次につながるよう記録にも残すようにしましょう。 ・定期的な申し送りや担当者以外への書面での情報提供など職員相互の情報共有ができていると思う。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・毎朝の申し送り時や月に一度のミーティング（今年は書面）できている。担当者会議後、他職員に情報提供している。 ・毎日の申し送りや定期的なカンファレンスを行い、書面を確認するようにしている。 ・定期カンファレンスは、担当者が評価を行					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		い課題の抽出など行い、ケアマネ任せにならない取り組みを行った。					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	4	10	0	0	・反映頂いていると感じています。 ・外からの意見に学ぶこともあ ると思います。 ・議事録の回覧は大切ですが、 書面だけでは不十分な場合が あります。内容によっては会議 参加者から、口頭での報告も検 討してください。	✓ 「得られた要望・助言等のサービ スへの反映」の視点から、充足度 を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことが できる就業環境の整備に努 めている	1	3	10	0	・忘年会や食事会等は無理と思 いますが、ちょっと洒落た弁当 を配るとか、マスクや消毒セッ トを渡す etc.はいかがでしょ うか。事業所内の” つながり” 強 化の為に。 ・人手不足が原因で業務超過に 陥りサービスの低下に繋がら	✓ 「職員が、安心して働くことの できる就業環境」の充足度を評価 します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、 「精神的な負担の軽減のための支 援」、「労働時間への配慮」などが 考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		ことができなくて、コロナへのストレスもあいて、職員間のギスギスした関係も見え隠れしている。				ないよう補充に努めてください。 ・職員が安心して働くことができないと十分なサービスが提供できません。 ・人員不足の解消と互いの協力をお願いします。	
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	7	6	1	0	・担当者が決まっている事は、被介護者にとっても喜ばしい事だと思います。 ・被介護者、各人の個人ファイルは、貴重なデータベース（カルテ）であり、すばらしい取り組みをされていると感じております。 ・記録のやり方を教育し、方法統一するなど工夫されています。迅速な情報共有ができるよう利用者の情報に更新があった場合の周知も図ってください。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
(5) 安全管理の徹底							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	6	7	1	0	・被介護者のお宅への送迎に関し、道幅や駐車場、駐車スペース等について（あれば）、行政に意見や提案具申をされたらいかがでしょうか。国も地方自治体も”在宅”を推進しているのですから。 ・事故が発生した場合は市のほうへ事故報告をしてください。また、事故の原因を追求し、手順の直し等の予防が大切です。職員の安心安全を守る、例えば、賠償保険や有休の取得なども。 ・ドライブレコーダーを設置することは、運転者の安全運転にも繋がります。また、ヒヤリハットなど定期的な研修をお願いします。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時において	5	5	3	1	・これは行政（市）としても、	✓ 「緊急時におけるサービス提供の

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	も、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・台風等で家族の訪問が困難な場合の臨時の通い泊りの受け入れ、独居の方の訪問等を行い、職員間や家族とも情報共有できている。 ・家が安全な場合は家に早く帰宅するがよいときには、早めの送迎などで対応している。 ・緊急時の連絡先リストの作成、ハザードマップの掲示、災害時（土砂災害に対して）、マニュアル作成し、市に提出。土砂災害にかかる事業所は市内には当事業所のみとのことで、市より連絡待ち。 ・火災時の避難訓練を利用者と行った。コロナの影響で、いつもより開催時期の相違や消防署の方の立ち合いがなく、予防査察も電話で行われた。				早急かつ具体的に対応方法、仕組を考えるべき項目と思っています。 ・災害はいつ起こるかわかりません。現在作成しているマニュアルで災害に備えましょう。 ・緊急時の体制を明確にして職員、利用者等の情報共有を徹底してください。	ための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	4	9	1	0	・ 8. の「個人ファイル」に追記してカルテを充実させると共に、家族の反応等も項目追加されたいかがでしょうか。 ・ 暮らし全体を把握すること	✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護において

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		ーションを図ったり、可能な限り対応できている。				は、難しいと思いますが、家族等(場合によっては、地域の方)からの情報を得てください。	は、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	7	5	1	1	・介護職から看護職への情報提供はできていますか。⇒介護職から現状報告は通常業務としてあり、対応が必要時は即動いています。	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	7	7	0	0	・利用者と家族の考えが異なることもありますが、双方の意向も踏まえ、適切な対応をお願いします。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・カンファレンス・担当者会議録に目を通して ・意向に添った対応ができるようにしている。 ・訪問など家族との情報提供の共有把握 ・ケアマネが家族や利用者様の意向を聞いて尊重した計画がされている。 ・毎月のモニタリング時や送迎時等に話を聞き、家族や利用者から要望があればサービスを検討し、ケアプランに反映している。 ・福祉用具についても、早期対応し利用者・					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		家族からも安心していただいている。					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	5	9	0	0	・「個人ファイル」（カルテ）の重要性が高まります。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・心身の機能を維持・向上のため、「自立支援」を目指した計画作成ができている。 今年度、理学療法士の配置で、より専門的な機能訓練が行えるようになった。福祉用具の選定により、歩行機能の維持にもつながっている。 ・「できていること」の維持、「できることはする」など、計画作成を心掛けている。							
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	3	10	1	0	・PTの配置、よく評価して効果を知ってもらいましょう。 身体的な機能の維持回復だけでなく精神的な面も含め、計画の作成をお願いします。	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・医療ニーズの高い利用者に対しては、随時看護職と相談・情報共有しプランに活かすようにしている ・利用者によってのリスク（転倒や一人暮らしによる体調変化等）を計画に入れている。それに目を通してしている。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	6	7	1	0	・場合によっては突発的な状況変化も考えられます。利用者特有の事情を考慮し、計画作成してください。 ・画一的にならぬよう継続的なアセスメントをお願いします。通い、泊りのバランスは？泊りの偏重？ ・利用者本人は気づかないことでも客観的な視点で状況変化を把握することが必要と思います。例えば、定期的な体力測定でも、病気等の早期発見など有効な場合があります。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	5	8	1	0	・状況により利用に隔たりが発生することはやむを得ませんが、適時適切な調整をお願いします。	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・通いや泊りが偏りそうな場合は、家族とも話をし、なるべく自宅で過ごす時間を作るようにしている。それが、困難な場合は、その先の話として、施設入所の話をしている。 ・独居の利用者は訪問にて生活状況の変化の把握や支援をしている。近所の方とは、今年度は電話でコミュニケーションを図り、情報交換が出来ている。					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	4	8	2	0	・目標達成状況の情報共有はどうですか。目標を持った計画を作成ください。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・ケアマネからの情報などに目を通して いる、意見交換をしている。 ・主治医に必要時面談し、情報を伝えて指示を受けている。 ・母体法人の医師やMSW とは月に一度（リモートでの）情報交換やカンファレンスで、情報共有ができている。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行	7	5	2	0	・内科的原因が潜んでいることも考えられ、左記されている対応は、重要と思われます。あり	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・利用者様の体調不良に気付いた時、					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	われている	介護職が気になったことや変化があれば、 すぐに看護職に報告して、指示を受けるようにしている。 ・入浴時、創傷の処置は看護職がかかわり、 皮膚の状態に変化があれば、看護職が適切 に対応している。 ・互いに協力し合い、業務に携わることが できている。 ・記録・ケア等で分担ができているが、記 録は共通認識できるように同じ書類を使っ ているため、周知しやすくなっている。				がとうございます。 ・情報共有することで、役割分 担できていると思います。	✓ 介護・看護が一体的に提供される 看護小規模多機能型居宅介護で は、効果的・効率的なサービス提 供のために、各々の専門性を活か した役割分担や、業務の状況等に 応じた柔軟な役割分担を行うこと が重要です
20	○ 利用者等の状況について、介 護職と看護職が互いに情報 を共有し対応策を検討する など、両職種間の連携が行わ れている	8	4	2	0	・利用者の心身の状況に応じた 連携が大切です。 ・情報共有することで、対応策 の検討ができていると思いま す。	✓ 「介護職と看護職の情報共有およ び対応策の検討」について、充足 度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、 疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復など	8	4	2	0	・医療ニーズへ適切に応えられ るよう職員の対応をお願いし ます。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介 護職への情報提供や提案等」につ いて、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	の観点から、情報提供や提案 等を行っている	の説明をしている。 ・申し送りやミーティング、業務中でも随 時できている。介護職も気になることは聞 くようにしている。 ・訪問看護指示書や薬の情報などの説明を 看護職から行っている。				・看護職からの情報提供・提案 ができています。	✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割の 1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく説 明し、利用者等の理解を得て いる	7	7	0	0	・聞きなれない専門用語だとわ かりにくいと思います。相手に 寄り添って理解してもらえる ように接していただきたいと 思います。 ・利用料（本人負担分）の現状 と他施設との比較も行ってく ださい。 ・一般の方にわかる言葉での説 明は理解度を高めるうえで大 事だと思います。それを継続し てください。	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅	5	9	0	0	・利用者等により、専門用語等	✓ 「利用者等の理解」について、充

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	・難しい言葉は遣わないようにしている。（文面も発する言葉も） 反応をみながら、確認して再度説明して理解をしていたでている。 ・カルテ内の留意点を見て、一人ひとり対応介護している。				に対する理解が異なりますので、反応に留意して指導・説明をお願いします。	足度を評価します
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	4	8	2	0	・家族が行うケア分担を明確に。フォローも大切ですね。 ・利用者等が理解することが大事ですので、わかりやすい言葉で説明してください。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	4	10	0	0	・利用者の意思を尊重し、適切なサービス提供に努めてください。 ・意思表示が難しい場合は、家族の希望や意向により、本人の状況を把握しながら、サービス提供に反映してください。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
		大切にして、声掛けをするようにしている。 ・毎月状況確認し、共有し反映している。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	3	11	0	0	・十分に相談し、その対応方針を共有しておくことが大切。 ・在宅生活の継続可否については、本人の意向だけでなく状況把握が大切です。場合によっては予め、その判断基準を提示することも必要かと思います。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	2	9	3	0	・前にいらした方の対応を活かして接してほしい。経験を積んでより良い対応につなげてほしい。 ・終末期ケアの説明は大事ですが、本人の拒否反応も考えられます。丁寧な説明をお願いします。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅	5	7	2	0	・在宅において自立した生活を営むことができるよう適切な支援をお願いします。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・ケアマネがしている情報交換・連携した					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	生活への移行を支援している	文書を確認している。 ・退院・退所前カンファレンスに、管理者・ケアマネが参加し、情報共有できている。 病院から相談があれば、事業所内でも検討し、円滑な在宅生活への移行ができるようにしている。				・在宅生活への移行は、本人の不安を取り除くための丁寧な説明・支援が必要です。病院・施設等との十分な情報共有をお願いします。	✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	4	7	3	0	・緊急時の連絡先はつながり易いと思われる携帯電話番号を伺って置くと良いと思います。固定電話はほとんどつながりません。 ・緊急時でも対応できるよう日頃から体制づくりに努めてください。 ・緊急時の連絡先など把握しており、対応可能と思います。	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	4	8	2	0	・即座な対応が必要となるため、全ての利用者について整備ができている必要がある。 ・AED の使用方法はみんなが知っていますか？⇒ほぼ全スタッフが講習を受けた経験が	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・利用者のかかりつけの医師への連絡・対応（看護サービス利用者は、即医師の携帯電話へ連絡） ・急変時の対応はできている。（AED の設					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		置あり) ・緊急時どこの病院へ搬送や連絡するのかという話はできている。 ・看護職へのオンコールが出来るようになっている。				あります。 ・医療機関との連携ができており、即座に対応可能と思います。	
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	7	6	0	0	・連携手段として、運営推進会議は最良の機会だと思います。どんどん活用すべきです。 例えば、25. 26. 27. の場合の「成年後見制度」利用について等、本人や家族への説明に関し、市や社協に相談されたら良いのではと思っています。 地域住民を含めた情報交換がおこなわれています。 ・新型コロナウイルス感染拡大により、一部書面での報告となったが、定期的に情報提供、提案がなされています。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	9	5	0	0	・「看護小規模ケアホーム」の事業内容（どんな状況の人にどんな対応ができるかを主として）を民生委員の定例会（1回／月実施）に説明に来てくださったら、民生委員も高齢者の相談に乗り易いです。（民生委員は3年に1回、改選があります。直近は2019年12月1日でした） ・誰でも閲覧可能としても迅速な情報発信ができていますか。⇒誰でも可能です。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	3	8	3	0	・地域住民向けの啓発活動として、ホームページ等是有効ですが、年配の方にはチラシ等の書面がより良い手段だと思います。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	5	6	0	1	・看護職の不足により、登録者以外の訪問看護は難しいですが、できる範囲でお願いします。	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護職の不足で、訪問看護ステーションの看護職と協同して、登録者以外の利用者に積極的に実施した。							
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	0	1	10	3	看護職の確保が必要です。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・吸引器の設置はあり、現在利用者には、看護職がすぐ対応できるようにしている。 ・夜間帯では、看護職が不在のため、積極的には受け入れていないが、看護職が対応できるようになっている。							
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする	0	0	1	13		✓ 「積極的な受け入れ」について、

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・受け入れる体制が整っていない。					充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	3	5	6	0	・利用者家族に寄り添った対応をお願いします。医師等との連携を引き続き行い、できるだけ在宅支援をお願いします。 ・現状では、新たな看取り支援必要とする要介護者の受け入れは困難でしょうが、実績もでき将来的には、受け入れ可能な体制を構築してください。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が	0	11	3	0	・”システムの構築”とは”連	✓ 「内容等の理解」について、その

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	介護保険事業計画等で掲げ ている、地域包括ケアシステ ムの構築方針や計画の内容 等について理解している	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・全ての職員が理解まではできていないが、 自分たちの役割は理念としてサービス提供 に生かしている。				携の仕組み作り”だと民児協で は理解しております。「圏域ケア 会議」等での積極のご発言をお 願い致します。 ・市のホームページで閲覧可能 です ・すべての職員が地域包括ケア システムの構築方針や計画の理 解するようお願いします。	充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあ たっては、その中で各々が果たす べき役割を、明確に理解すること が必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針 や計画などがない場合は、「全くで きていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアにつ いて、特定の集合住宅等に限 定せず、地域に対して積極的 にサービスを提供している	1	11	2	0	・提供エリアの集合住宅等の特 定はされておらず、積極的にサ ービス提供が行われていると 思います。	✓ 「特定の集合住宅等に限定しな い、地域への積極的な展開」につ いて、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、 特定の集合住宅等に限定すること なく、地域全体の在宅療養を支え る核として機能していくことが期 待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象とし ている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域 の関係者に対し、必要に応じ て課題提起や改善策の提案 等が行われている	0	9	5	0	・地域の関係者との連携のため、 情報提供だけでなく、課題 提起等の積極的な活動をお願 いします。	✓ 「課題提起や改善策の提案等の取 組」について、その充足度を評価 します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じ て得た情報や知見、多様な関係者 とのネットワーク等を活用し、必

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		クづくりを心掛けている。 警察署員・消防署員など幅広い職種の方の 情報提供をいただいた。 ・集合住宅の方は利用されていない。					要となる保険外サービスやインフ ォーマルサービスの開発・活用等、 利用者等のみでなく地域における 課題や改善策を関係者に対して提 案していくなどの役割も期待され ます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対 し、その介護力の引き出しや 向上のための具体的な取組 等が行われている	1	10	3	0	・メール → 確実で良い方法 と思います。 ・認知症の方には、家族だけ でなく地域住民の協力が不可欠 です。 ・キャラバンメイト等の積極 的な活動を期待します。	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介 護力の引き出しや向上のための取 組」について、その充足度を評価 します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣 住民の関わりを促しながら、関係 者全員の介護力を最大限に高める ことにより、在宅での療養生活を 支えていくための環境を整えてい くなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている・・・5人 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている・・・6人 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている・・・1人 4. 利用者の1/3には満たない・・・0 <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・在宅維持が出来るように支援できていると思う。	・計画目標は概ね達成できていると推測されるが、評価にバラツキがあり、目標が明確になっているか。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている・・・3人 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている・・・8人 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている・・・1人 4. 利用者の1/3には満たない・・・1人 <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・医療的な処置や日常生活の相談等により、安心感が得られている。	・医療そのものに対する不安感もあり、すべての利用者や家族の安心感を得ることは難しいと思います。評価者の主観による判断ですから、ある程度の評価のバラツキはやむを得ないと思います。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている・・・3人 2. 利用者の2/3くらいについて、達成さ	・安心感が得られるよう、日常から利用者家族との関わ	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	れている・・・3人 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている・・・1人 4. 利用者の1/3には満たない・・・3人 5. 看取りの希望者はいない・・・1人 <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看取り指針は作成あり。 ・在宅で看取りを行った方は、そばにいてくれたことや、どうなっていくかを教えてくれたことが、とても安心感につながった」と話してくださった。 ・終末期を迎え、家族の精神的負担が大きく最期は入院になったが、ご家族に悔いの残らないようにお話はできた。	りをしっかり行ってください。 ・在宅での看取りは、困難なことだと思います。ただ、利用者の傍にいただけで安心感も得られると思います。	提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」